

(お 知 ら せ)



平成26年 3月 7日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所の近況について

敦賀発電所の近況について、以下のとおりお知らせします。

1. 運転状況について（平成26年3月7日現在）

1 号 機 沸騰水型（35万7千kW）	第33回定期検査中 平成23年1月26日～未定*
2 号 機 加圧水型（116万kW）	第18回定期検査中 平成23年8月29日～未定*

（ ）内は定格電気出力

*：福島第一原子力発電所事故に対する安全対策の実施状況や新規規制基準の対応状況を踏まえ、地元のご理解を得ながら計画します。

2. 故障等の状況について（平成26年2月4日～平成26年3月7日）

（1）法律に基づく報告事象

なし

（2）安全協定に基づく異常時報告事象

なし

（3）保全品質情報等

①敦賀発電所2号機 炉内温度計用引出管の折損について

平成26年2月9日、敦賀発電所2号機において、原子炉容器内の温度計の引出管のうち、1本の引出管が継手部で折損していることを確認しました。

これまでの原因調査の結果、当該引出管は、冷却材の温度が低い状態では冷却材の流れを受けて振動しやすく、その影響により、疲労割れが発生したものと推定しています。

今後、調査を継続し、必要な対策を講じてまいります。

なお、本事象による周辺環境への放射能の影響はなく、当該引出管の折損は原子炉の安全性に影響を与えるものではありません。

（別紙1参照）

3. 敦賀発電所3, 4号機 準備工事について（平成26年3月7日現在）

（1）建設準備工事

現在、背後斜面の緑化管理等の建設予定地の維持管理を継続して行っています。

（2）仮設工事関係

現在、コンクリートプラントの維持管理等を継続して行っています。

4. 東北地方太平洋沖地震関係

（1）敦賀発電所敷地内破砕帯の追加調査状況等について

①原子力規制庁に対する破砕帯調査に係る今後の審議等に関するお願いについて

敦賀発電所敷地内破砕帯調査に係る今後の審議等に関し、平成26年3月6日、副社長の市村が原子力規制庁の小林安全規制管理官と面談し、現地調査等でご意見等を頂いたピアレビューの有識者の方々にも審議にご参加頂き、科学的・技術的な観点から議論をさせて頂きたい等のお願いをしました。

（平成26年3月6日発表済み）

5. その他

（1）げんでんふれあいギャラリー催物のご案内について

＜個人・グループでの芸術活動、趣味の発表の場としてご利用頂いております。＞

①糸辺にあそぶ

敦賀市在住の高橋 操子 様と西村 辰子 様のお二人による手編みや織物の作品展です。セーターやベスト等の衣類から編みぐるみや小物等、織りと紡ぎを中心とした作品を132点展示しています。

（3月4日～3月9日）

②ふるさとの駅 写真展

写真愛好家「写好人」（代表：松尾 敬二 様）の皆様による写真展です。四季にわたって撮り収めた鉄道の今昔や、生活に密着したローカル線の風景等の作品を約30点展示予定です。

（3月11日～3月16日）

③「さをり・三月・織り日和」西本 女禮、伊丹 路恵 二人展

敦賀市在住の西本 女禮 様と京都在住の伊丹 路恵 様お二人による手織の作品展です。敦賀の天然記念物、大比田の大ソテツを織りで表現した作品等、約50点展示予定です。

（3月18日～3月23日）

④アメリカントールペイント 作品展

「つるがトールペイントクラブ」、「Painting mama」（講師：長船 初美 様）の合同作品展です。美しい色彩のアメリカンフォークアートや絵画のようなオイルペイント、エレガントな白磁のポーセラーツ等、トールペイントの作品を約100点展示予定です。

（3月25日～3月30日）

(2) 次世代層等への教育支援活動関連イベント

＜次世代層等への環境・エネルギー等に関する教育支援活動として、以下の事業を実施します。＞

げんでんeまなびクラブ交流会

対 象：げん丸塾生他

会 場：敦賀市中郷公民館 大ホール

日 程：3月15日（土）

敦賀発電所 2 号機 炉内温度計用引出管の折損について

<概 要>

平成 26 年 2 月 9 日、敦賀発電所 2 号機（第 18 回定期検査中）において、原子炉容器内の炉心出口の水温を測定している炉内温度計の引出管※1 1 本（以下「当該引出管」という。）が、継手部で折損していることを確認しました。

なお、他の 49 本の引出管に異常はなく、炉内温度計及び原子炉容器内の構造物にも影響はないことから、原子炉の安全性に影響を与えるものではありません。

これまでの原因調査の結果、冷却材の温度が低い状態で 1 次冷却材ポンプを運転した場合、当該引出管は、他の引出管に比べ冷却材の流れを受けて振動しやすいことが判明しており、その振動の影響により、疲労割れ※2が発生したものと推定しています。

今後、調査を継続し、必要な対策を講じてまいります。また、本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

※1：温度計を挿入し原子炉容器内の所定の温度測定位置まで導くために取り付けられたステンレス製の管。

※2：繰返し加わる力が継続することにより金属材料が損傷する現象のことをいう。

